

スポーツ健康科学課程・保健体育専修，スポーツ C(柔道／ダンス)

担当教員：杉山允宏・牛山眞貴子

「スポーツ C」(1年・後期・後半ダンス7回) 学習成果と改善の視点

保健体育講座 牛山眞貴子

1. 授業の概観

1) 科目の説明

スポーツ C は対人スポーツ領域を担う科目で、学校体育の中で中学校・高等学校は体育科目として取り扱われている「柔道・ダンス」を組み合わせた1年生対象の教科専門授業である。「柔道」を前半8時間、「ダンス」を後半7時間行う。また24年度より中学校体育において武道とダンスが男女必修化され、体育での重要度が高くなった。

今年度ダンス後半7時間を担当しており、その報告をおこなう。

スポーツ C の受講生の中にはダンスを経験したことのない学生、不得意な学生、逆にダンスを専門とする得意な学生が含まれる男女混成クラスである。

2) 受講生の構成

学校教員養成課程保健体育専修1年8人

その他科目等履修生1人

スポーツ健康科学課程1年21人

3) 授業の目的・到達目標

●授業目的

- ① 基本技能の習得
- ② 身体への意識
- ③ 他者と関わる力
- ④ 安全性のための管理

上記の4点について学習を通して身につける。

●到達目標

- ① ダンスの基本運動、基本技能を行なうことができる。
- ② ダンスの特性を説明することができる。
- ③ からだの動かしたい部分を意識しながらイメージを表現することができる。
- ④ 安全を確認しながら注意と配慮を行なうことができる。
- ⑤ 受講生が協力し合い準備と活動を行うことができる。

●授業内容

(8回まで柔道のため第9回が初回)

＜第9回ダンス入門＞

からだほぐし、パートナーストレッチ、レクレーションダンス他

＜第10回＞

基本的なリズムダンスの技能を高める

＜第11回＞

基本的なリズムダンスの技能と指導

＜第12回＞

発展的なリズムダンスの技能と指導

＜第13回＞

ダンス学習の工夫、ダンスの練習と創作

＜第14回＞ダンス学習の工夫、ダンスの創作とリズムダンス+創作・運動課題のテスト課題を提示、その練習を行う。

＜第15回＞

技能テスト(リズムダンス+創作・運動課題)

ダンス学習の過程と学習成果を振り返る。

自己評価、授業に関するアンケート、授業ノート提出

*総合評価をし、ノートは各自に後日返却した。

2. 授業評価法

i) 授業に関するアンケート

自己の技能の向上に関する項目と授業に関する項目(感想/改善について)を表記した用紙を配布。実技後授業時間内で15分間の時間を取り。記入させた。回収率100%

ii) 授業ノートからの省察

学生が提出した授業ノートから、授業での到達度、満足度を考察する

3. 授業評価結果

i) アンケートからの結果

a. 取り組み

授業を難しすぎる点を指摘した学生はいなかった。が、自己を解放すること、ならびに怪我や故障(部活動と試合での)があつて、できない運動があつたことについての指摘が5件あつた。

改善点としては、授業外で起きる怪我や故障に対しては可哀想だが、授業外のことはこちらでは手の打ち様がない。状況に応じて個人メニューを取り入れた。今後できるだけ見学・観察レポート

に留まらない授業内処置を工夫したい。

自己解放については、個人差が大きく、高校までのスポーツキャリアからくる部分も大きい。自己表現ならびに人と関わることについての受講生の温度差があり、その点が今後の課題と言える。人との関わりの在り方から開設を必要とする時代に突入してきている。工夫として、できるだけコミュニケーションスキルの必要性を説き、「性格を変えるのではなく、自己解放するスキルとコミュニケーションスキルを身につける」意味付けとスキルの存在を説き、スモールステップで内容を進めていく等、丁寧に指導していきたいと考える。

b.環境

秋から冬にかけての開講時期なので、寒さ対策を考え、運動量の多い動的なリズムダンスを後半に行った。その点を高く評価している学生も多く、寒さに関するクレームはなかった。むしろものすごい（想像以上の）汗を各授業であったことを85%の学生が記述していた。また今期は比較的暖冬（特に火曜日）で雨の日がなく、ダンス場によく陽が注ぎ込んでいたことも幸いであった。

c.難度

創作ダンス、体ほぐしについて難度が高かったと評価する学生はゼロであった。リズムダンスについては2つ目のリズムダンス・コンビネーションの難しさをあげたものが92%で、これをテスト課題にしたこともあり、前日までダンス場の空き時間を使って練習した学生が半数以上であった。テスト成績は、今回追試験者も出ず、良好で、全員合格した。

課題の難しさを決めるのも指導者の裁量といえる。今回はすぐ手の届くところに目標を掲げず、練習した先に手の届く目標設定を行った。今回のクラスでは、難しかったという評価ではあったが、この難度によって得られた達成感は大きな収穫であった。

d.受講態度

この授業では、事前指導で挨拶／マナー／欠席の事前連絡など詳細の申し合わせをした。しかし、挨拶／返事についても授業当初きちんとした挨拶ができない学生が数名いて、出席確認時、何度もやり直した。そのために授業時間をそこだけで10分費やすこともあった。きちんとした態度／マナー／返事が身についたと思い、油断すると「しない」学生が現れる。しばらくいたちごっこのような状態が続いたが、常識的なラインにまでは全員到達したように評価している。「受講態度や受講に臨む姿勢について、今更目くじら立てて言うことではない」と全く指導しない教員もいるようである。が、果してそれが今日の大学生の現状に

通用する正論なのだろうか。教育実習先の教員から「せめて挨拶・返事がきちんとできる、約束・期限を守る、適切な身だしなみ、テキパキした行動がとれる学生であることが送り出す大学の最低限のマナーだろう」との指摘が近年多くなっているのは周知のことである。後期に行われる私の授業の1時間目でこの状態ということは前期、一体、どのような状況で何を指導していたのかと、率直に授業者の指導姿勢に疑問を感じずにはいられない。今後、この授業で貫いてきた受講態度と受講姿勢が、授業が終っても受講生が継続していくかどうかが課題でもある。特に教員志望の学生は、専門以外のクラスマネジメント、生徒指導、親との対話力等への最低限の意識化、社会人としての常識が身につけていなければならない。「無断で休む、名前を呼ばれてもクリアな返事をしない、授業中の私語、人の行動を茶化す、他人に無関心、集合と次の行動への移動がダラダラして遅い、時間を守らない」など、当初目についた大人げない行動の学生が成長して、社会人としてのマナーを意識した行動ができるようになって教育実習等へ参加してほしいと願っている。また個性重視を勘違いしている学生に対して、学習の場と個人生活の場の分別をきちんと指導していく指導者の一貫した姿勢が、肝要と考える。アンケートでは、受講生全てが「メリハリの効いた授業」「時間がたつのが早い授業」をあげていた。特に受講生が感じ取ったメリハリは、授業者がもたらしただけの成果ではない。受講生たちの受講態度と受講姿勢が成長して、その意識が行動に現れ、授業のメリハリに繋がったと私は考えている。

4. まとめ

この授業では、ダンスの基礎力を高めることが目的で、その到達目標については、最も低い評価の学生も達成できていた。また授業ノートからも、学生が授業内容を理解して記入ができており、ダンスの初歩的段階としては一定水準をクリアしたと評価する。受講態度・受講姿勢について、これが一過性で終らないように、今後の授業の中でも注意していくことが必要である。

今後、アドバンスト・スポーツ I/J の授業の中で、ダンスの授業デザインと指導方法については詳細にプランを組み、指導していきたいと考えている。また受講態度・受講姿勢に関しては、どこに出しても恥ずかしくない1人前の大人としての最低限の社会性が身につくように今後も指導していきたい。学生が積極的に3・4年次に用意しているアドバンストの機会を活用して、より高い実践力を身につけていくことを期待している。